

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

285-717

事務事業名	恒川遺跡群調査活用事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	生涯学習・スポーツ課		包含する細々目	1	10	5	3	11	2	5,602
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり											
施策	29 ふるさと意識の醸成											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	必要	関連計画条例等		文化財保護法				
		事業期間	13	年度～	25	年度						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	飯田市民	飯田市の人口(人) (H18.10.1推計人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする	
			107844	107000			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	東山道筋の拠点として、大和朝廷の東国経営に重要な役割を果たした土地であることを市民に知ってもらおう。	学習会・総合学習等実施(回)	18目標	5	最終目標		
			18実績	4	19目標	5	↑
			23目標		23実績		最終目標達成年度
			18目標		最終目標		
			18実績		19目標		↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	座光寺の恒川遺跡群は、奈良時代から平安時代にかけて、大和朝廷のよる東山道の拠点である伊那郡衙の所在し、全国的に注目されてきた遺跡である。文化庁調査官の現地指導では、今まで確認されている役所の倉庫の範囲を確定する調査が必要であること、また古代から生活用水として利用されていると見られる「恒川清水」の再評価の必要性等の指摘を受けている。これを受けて調査を継続することにより、当地域が果たした歴史的役割を明らかにするとともに、このように、古墳時代から律令社会にかけての政経史において汎日本的なレベルで評価を受けている遺跡群について市民に知ってもらい、ひいては郷土に対する愛着を深めてもらうよう、学習会開催等利活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 総合成果としての調査報告書官衙編を刊行 市民への普及・公開活動として、考古資料館で展示の実施 恒川遺跡群調査における現地見学会 高岡第1号古墳の環境整備実施 麻績の里振興委員会での学習会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 検討した遺物の数(箱) 学習会等の回数(回) 	<ul style="list-style-type: none"> 800 4
	18年度の実績			
	19年度計画	<ul style="list-style-type: none"> 正倉の範囲確認のための調査 恒川清水の再評価及び調査研究 遺構の確認調査を行い、中心部の把握に努める。 保存・活用についての検討会の実施 学習会等の開催及び学校との連携(総合学習等の教材・現地学習の場としての提示) 	<ul style="list-style-type: none"> 範囲確認した調査箇所数 学習会等の回数 	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金	2,800	2,800
	県支出金	420	420
	起債		
	その他		
	一般財源	2,382	2,382
事業費計(A)	5,602	5,602	
人件費	正規職員所要時間	18年度 4,000	19年度 4,000
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	14,304	14,304
	トータルコストA+B	19,906	19,906

特定財源内訳や補足事項	国宝重要文化財等保存整備費補助金(国庫補助 文化庁)50% 文化財保護事業費補助金(県費補助 7.5%、当初予定)
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	地域を知る 地域を誇りに思う	飯田の事前・歴史・文化を学んでいる市民の数(延べ人数)	現状値	18016	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	19800
	ふるさと(飯田)を誇りに思っている市民の割合	ふるさと(飯田)を誇りに思っている市民の割合	現状値	75.3	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	85	

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
座光寺バイパスの建設に先立つ発掘調査により古代伊那郡の役所の存在が指摘された。引き続き行われた重要遺跡範囲確認調査によりその範囲がしぼり込まれたこと、保存・保護活動への声が上がった。	バイパス開通により急速に開発が進み、以前の姿をとどめていない。かろうじて地下にある遺構は保存されているが、早期に中心部の把握を行い、遺跡群の全体像を把握するとともに、歴史学習の場としての整備など活用が必要となっている。地域資源を核とした地元の地域振興の取り組みとして、麻績の里振興委員会の活動がある。	市民からは、いくら重要だといっても地中であっては見ることができないので目に見える形にしてほしいとの要望が、また、地元史学会をはじめとして、施設をふくめた史跡整備の要望がある。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由) 遺跡群に関する総合学習や学習会は、小中学生・市民が自己のふるさとを再認識する場であり、郷土の歴史を知ることと郷土に対する誇りや自信の向上に繋がる。また、文化財の保護を通じて郷土を再認識する。	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由) 調査中の遺跡での見学会や遺物の見学会を開催することに加え、定期的な学習会の実施によって、広範囲への認知が可能となる。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 市民の郷土に対する認識の向上を目的としているため。		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 影響あり (その理由) 開発の進捗によっては、貴重な国民共有財産が消滅してしまう恐れがある。これにより、飯田市の文化財保護行政の姿勢が全国に問われることとなる。更に、市民の誇るべき地域資産を糧にした郷土愛を踏みにじることになりかねない。
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 学習活動の積極的な展開により、より多くの市民や各年齢層に事業の趣旨を周知する必要があるため。			(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由) 文化財保護法に定められた遺跡調査の成果などを資源とする部分が多く、公的な関与が必要となる。		効率的に、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由) 個々の調査等の事例を積算しているため不可能である。
		公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由) 市民のみならず、国民が受益者である。	

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	小中学生に総合学習を通じ郷土愛をはぐむことを目的の一つとして、引き続き、机上の学習ではなく、自身の足で歩き触れる事のできるコースを作り、実践する。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	受け身でなく、こちらから複数のカリキュラムを提示することにしたい。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がある	(2) 必要性な場合の実施事由	2- 新規の事業を実施することが決定したとき
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	調査にあたっては、消耗品の購入抑制・エコ商品の購入、燃料の削減、省エネ・消音タイプの重機使用を行い、環境への負荷軽減に心がけた。また、学習会等では、遺跡の住民である先人と環境との関係などについて説明を行なうことができた。		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	